

## 変更理由書

勝山市長尾山総合公園は、福井県立恐竜博物館を核とする教養施設、運動施設、遊戯施設等を計画する総合公園として、平成9年3月28日に135.9haが都市計画決定され、第1期エリア85haのうち79.6haで供用を開始している。

勝山市は、令和4年4月に「第6次勝山市総合計画」を策定し、10年後のまちの姿「わいわい わくわく 安全安心のまち かつやま」の実現に向け、子育て・教育分野での政策目標として「教育連携を通して社会で活躍できる人材を育むまち」を掲げ、誘致を進めている福井県立大学古生物学関係新学部と市内小中高校との恐竜やジオパークなどを中心とした交流・連携を推進し、社会で活躍できる人材の育成体制を構築するとしている。

福井県立大学古生物学関係の新学部創設においては、新学部が福井県立恐竜博物館と隣接することで、効率的・効果的な連携機能を持った、「恐竜、恐竜化石を中心とした古生物学研究拠点」が構成され、世界的学術研究拠点を目指す新学部の価値が高まるものとし、その立地場所を勝山市が管理する都市公園である勝山市長尾山総合公園内に誘致していくことが決定している。

一方、福井県立恐竜博物館は、大型連休等の繁忙期を中心とした公園内園路も含めた周辺道路の来園者による慢性的な渋滞が課題となっていた。これに対し、勝山市は園内駐車場の増設や、パークアンドライドの実施等の対策を行っており、近年は、新型コロナウイルス感染拡大防止として福井県立恐竜博物館が導入した時間帯を区切った予約制により、慢性的な渋滞は緩和されつつある。

しかし、北陸新幹線の福井敦賀開業や中部縦貫自動車道の県内全線開通などの高速交通網の発展、福井県が進めている福井県立恐竜博物館の機能強化や、勝山市が進めている民間活力を活かした本公園の再整備事業により、今後も来園者の増加が見込まれる中、本公園の主要な出入口は1箇所であることから、勝山市地域防災計画で一次避難地に指定されている本公園への渋滞時における迅速な避難者の受入や、火災や救急搬送に対応するための進入路の増設が急務となっている。

そのため、公園施設ではない福井県立大学新学部の誘致に伴い、当該用地を公園区域から除外するとともに、新たな進入路として整備する箇所を新たに公園区域として位置付けるものとし、都市公園区域の変更を行うものである。

また、寺尾交差点からの公園入口付近の園路は、当初計画の線形を変更して整備されたことから、現在の地形地物に合わせて区域境界を変更し、都市公園区域に追加するものとする。